

すぎのこ

152

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2018 10/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 狭山研修センター：〒350-1315 埼玉県狭山市北入曽695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
 滝沢研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 園からの声／制作だより
 ／人形劇観劇会／いい大人人形フェスティバル
 4面 日本芸術文化振興会助成事業につきまして／「すぎのこ飯能研修センター」移転のご報告／新人紹介ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

「未来の子どもたちのために」 ——すぎのこの目ざす道

理事長 大場 隆志

実はこの地図、ピレネーの地図ではなく、アルプスの地図だったのです。

この話をたとえとして考えてみると、不確実な将来に向けて、自分たちが信じる道を進んで行こうという明確な意志が重要であり、将来はこうなるだろうという将来予測ができることが重要ではないということでしょう。

つまり、地図は違う場所を示す

ものだったもので、それを頼りに下山ルートを考えることは、まったく意味のないものでしたが、自分たちがこのルートを行くのだという明確な意思と、その意思を登山隊全員で共有したことが重要だったということなのです。

児童演劇の世界も少子化などの影響で厳しい環境にあります。人形劇や演劇の持つ本質的な素晴らしさを信じ、私たちすぎのこ芸術文化振興会が先頭に立って、劇団業界全体に影響を及ぼすような取り組みを情熱を持って行っていきたいと思っています。

その一つの方角性が、今年からすぎのこ芸術文化振興会で取り組んでいる「演育」だと思っています。昔は地域社会や祖父母、兄弟か

ら普通に学べた「コミュニケーション力」や「表現力」が、学びにくい環境になってきている近年において、教育として教えていく必要があると思います。子どもたちが自然に学ぶことが難しい現代社会では、やはり演劇的な教育を取り入れ、疑似体験的な教育をしていくことが望ましいと考えられます。

公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会は、演劇教育を通して、子どもたちが未来の社会を切り拓くための能力や資質の育成に貢献したいと思っています。

今回は「演育」について詳しくご説明いたしますので、よろしく願います。

巡回公演 演だ

おだんごばん班

榎田 ありさ

昨年の6月に入団して、あっという間に一年が経過しました。今年の3月、まったくのゼロから私を指導してくださった先輩方とは別の新たなメンバーでのおだんごばん班になり、7ヶ月経過しました。私にとって初めてのメンバー替えということもあり、最初の頃は演技や動きに違和感や戸惑いを感じていましたが、最近ではすっかり演技に馴染み、しっくりしています。



3月までは四国・中国地方で巡回公演を行い、現在は首都圏を中心に巡回しています。たまに愛知

県など東海地方に行ったり、泊まりがけで北海道や九州・沖縄地方などにも行きますが、互いに支え合いながら楽しくやっています。

この一年人形劇をやってきて、私は人形劇は絵を描くようだなと感じました。その人その人によって特徴があり、色があり、技術があり、誇張があり、リアリティー

があり、その人その人の表情や感情があって、見ているとすごくおもしろいです。演じていても演技に終わりや明確な正解がなく、奥が深く、楽しいと感じています。同じ劇をやっている、まだだまだ「おだんごばん」に對しても人形劇に對しても、他の人の演技を見ても発見が尽きないです。最初は人前に出ることを

ももたろう 班

横山 美歩

今年の夏は毎日のように暑く、常に熱中症に対する危機感と隣り合わせでしたので、いつも以上に体調を見て、日々の公演に臨んでいました。



暑い中でも、子どもたちの明るさは健在でした。汗びっしょりで上演を終えて、子どもたちを見送る時に見せてくれる笑顔は、また次の公演へのパワーになりました。夏休みに入ると、地域の小学生も来てくれ、ほとんどの子がジッと観ていましたが、上演後に顔を合わせた緊張がとれたように笑いかけてくれて、こちらホッとした気持ちになりました。きつと園にいた時見たのかな？はたまた初めてでドキドキしてたのかな？と大きい背丈を見て感じました。

有名な日本昔ばなし『ももたろう』の力にも助けられつつ、力いっぱい、皆さまに楽しんでもらえるようにこれからも励んでまいります。北陸地方の沢山の子どもたちにも、楽しいお話を頑張ってお届けします。

三まいのおふだ班

榎本 均

「三まいのおふだ」のお話は不思議がいっぱいつまっています。

自分自身、演出したり、実際に役にたずさわっていても、不思議な思いにとりつかれています。

「三まいのおふだ」の意味って？大人の思えば「愛」「勇気」「希望」なのかと。いやそんな薄っぺらなカッコウさでもないような。やまんなの存在って？ 子どもを食べたいと思うほど可愛いと思う、天の女の神なのかも知れない。和尚と小坊主の関係は？ 映画



「男はつらいよ」の住職と旅放浪のフーテンの寅さんのような人生の師匠関係なのだろうか。

便所の神様は？ 数年前にはやった歌「トイレの神様」のイメージ。きたないという印象とは真逆な銀幕のスター女優が出てくる。そうじゃなくて、おもしろをした園児を世話する先生方にも見えてくる。

こんな大人の思いなど知ったことかと、子どもたちは昔話の不思議な世界に入り込んで観ています。舞台は秋。小坊主は栗拾いに出かけます。

いっつぎなあとに班

吉田 薫

突然ですが、おにぎりってなんであんなに美味しいのでしょうか。先日劇団内で炊き出しをした際に、炊き立てのご飯で、手に塩をまぶしてぎゅっと握っただけの塩おむすびを作りました。そのなんとおいしいこと！ コンビニのおにぎりとは全然全く違いました。コンビニのそれは、すでにご飯全体に塩を混ぜ込んで握っています。型崩れを防ぐため固めに。私もよく

食べますが、人の手で握った、あのおにぎりの内側のふんわりほかほかは、機械では表現できない。表面だけに塩をまぶしていることで、お米本来の甘さがぐっと引き立つんです。話していたら食べたくなってきましたね。

お腹をすかせたタヌキが食べた、おいしいさんの作ってくれたおにぎり。それはどれほどおいしくて感動したことでしょう。「また来ておくれ」の言葉、どれほど嬉しかったことでしょう。最後はちよびり切ないですが、温かいおにぎりのおいしさは、いつまでもタヌキの心に残り続けるのでしょう。皆さんもぜひラップなどを使わずに、手でおにぎり握ってみてください！



もぐもぐ劇場班

下村 あきら

今年の夏、猛暑の中「もぐもぐ劇場」は、長野県飯田市で毎年開催されている、いい大人形劇フェスタに参加しました。会場は、飯田市・名古熊公民館。地区の方を中心に、乳児からおじいちゃん、



園から声

おだんごばん

■みつば愛育園(埼玉県狭山市)

コミカルでリズムカルな動きも手伝ってか、小さいクラスの子どもも楽しんで観ることができました。手遊びもわかりやすく教えていただいたので、劇中に登場すると自然と手が動いていました。

■俱知安藤幼稚園(北海道虻田郡俱知安町)

昨年に引き続き、今年度も楽しく見せていただきました。ボーッとした心にも楽しかったです。「おだんごばん」の中の歌、子どもたちの心に残り、次の日も口ずさんでいる子がいました。

いっつぎなあとに

■坂之上第2保育園(鹿児島県鹿児島市)

子どもたちが楽しめるようなお話だったので、興味深く見入っていたように思いました。はじめの方で、少し声量に驚いて泣いてしまふ子がいると、気を遣ってくださり、声量を調整してくださったように感じ、プロのすごさを感じ

おばあちゃんまで、沢山の方々がいらしてくださいました。

まずは、奈良県に伝わるお話で、絵話「くも女房」。小さい子にはちょっと怖いお話ですが、泣きだす子もなく、よく観てくれました。そのあとに上演した人形劇「かもとりごんべえ」では、ごんべえさんが、初めに顔を出した途端、

ました。

■かいぜ保育園(長崎県佐世保市)

大入道や大蛇や鬼が出てくる作品だったので、怖がって泣く子が数人いるだろうと思っていましたが、ちよと怖いながらもかわいらしさがあって(たぬきだから？)、楽しく観ることができました。おじいさんとたぬきのやりとりも楽しかったです。

ももたろう

■かさいこども園(石川県金沢市)

とても丁寧に対応していただき、挨拶や所作も(子どもたちにも)きちんとしてくれました。

お話にはのっていない細部の描写ややりとりが小さい子にもわかりやすく、感情がこもって大人も楽しめました。

一つひとつの場面や動き、表情が三人同じやり方で参考になるところが多かったです。演技力も声、言葉遣いなど、とてもひきつけられるところがありました。

子どもたちが「楽しかった」「〇

〇がうしろだったね」「おもしろかった」ととてもよい表情で感想を語っていました。華美な舞台ではなく、きちんとした丁寧な場面設定や人間味あふれる人形と演技力が素晴らしかったです。「また、見たいな」と思える作品でした。

■戸出西部保育園(富山県高岡市)

舞台から降りて客席の近いところまで来てくれたので、一体感が

おおきな笑い声がおこり、最後まで楽しい雰囲気の中で、無事に終了することができました。来年も、また参加して上演したいと思います。最後になりましたが、事前の打ち合わせも含め、当日、いろいろお世話になった公民館の方々に、御礼申し上げます。ありがとうございました！

あり、子どもが喜んで観ていた。

場面の転換が目の前で行われていたため、場面が変わる様子も楽しんで観ていた。また、この時も、集中がとぎれることなく、興味を持って観ている子がほとんどで、演出の仕方を学んだ。

スタッフの方々の話す口調、スピードが聴きやすく、子どもたちは集中して観ていた。衣装が統一されており、品を感じた。

人形も工夫されており、動きがとてよく、今後の保育にも取り入れたいと感じた。

三まいのおふだ

■鷺泊保育所(北海道利尻郡利尻富士町)

毎年とても楽しみにしております。離島でなかなか生のステージを観る機会がありませんので、子どもたちとても喜んでいました。様々な仕掛けに驚いたり、観た後も興奮して話しておりました。遠方ですが、これからもよろしくお願いたします

■遠軽幼稚園(北海道紋別郡遠軽町)

やまんなを退治する時の対戦方法が相撲等で楽しく工夫されていて、怖くて泣き出す子がいないようにしていたところが良かったです。

二人で演じているとは思えない動きと、音響や楽器の工夫があり、子どもたちも最後まで見ていられたようです。

制作

すぎのこは、54年間の歴史のなかで、何度か稽古場の引っ越しをしてきました。

神奈川県相模原市にあった稽古場から、現在の飯能研修センターに移ったときにも（15年前です）土地を譲ってくれた方、倉庫や駐車場を貸してくださった方、宝くじ協会、賛助会員のみなさま、たくさんの方々の多大なご助力をいただきました。ありがとうございます。

天覧山や入間川に近く、春は桜、

秋は紅葉と四季折々の里山の風景に、劇団員一同、とても癒されてきました。

また、春と夏のゲネプロにもたくさんの方にお越しいただき、貴重なご意見をいただきました。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。

今年の秋に、すぎのこは狭山市に稽古場を移転しました。同じ埼玉西部地域での引っ越しで、今後に向け、いっそう地域に根差した劇団となるよう劇団員一同頑張っていく所存です。

飯能研修センターの駐車場の梅の木と姫リンゴの木は、当時新人が入ったときの記念樹でした。今

はかなり大きくなり、花や実で、劇団員の心を潤してくれていました。この木や、近所の子どもたちのお別れはちょっぴりさみしいです。飯能のみなさん、本当にお世話になりました。

狭山市の新しい稽古場でも、どんな出会いがあるのか、何ができるのか、わくわくする思いを大切にしていきたいと思っています。狭山市のみなさん、よろしくお願いします。

そして、すぎのこのスローガンは変わりません。「どの児童（こ）にもナマの舞台の感動を！」これからも届けてまいります。

（榎本 千里）

人形劇観劇会

8月25日（土）晴れ、最高気温36度。関東一円で猛暑となったこの日、すぎのこ飯能研修センターにおいて恒例の人形劇観劇会を行いました。実は埼玉県飯能市にある研修センターが、お隣の狭山市に移転するため、飯能研修センターでの開催は今回が最後でした。

劇団すぎのこが活動を始めて54年。財団の本拠地は東京都の池袋で変わりないですが、以前は神奈川県相模原市に稽古場がありました。相模原市の稽古場兼事務所が飯能市に引っ越して来て15年。恒例の観劇会も初めは関係者だけでのゲネプロ、いわゆる本番を想定した通し稽古でした。ところがある時、外で作業をしているときに「何や



つてのの？ こは何の施設？」と近所の方に声を掛けられ、「全国に夢を届けている劇団の本部がご近所様に存在も知られていない。これじゃいかん！」というので、ご近所の方にチラシを配ったり、回覧板を回してもらったり、週末開催にして、近所の子どもたちや外部のお世話になっている方々も招いて「観劇会」を行うようになったのです。今回は移転の事もあり、今まですぎのこに関わっていた懐かしい面々や、久しぶりの子どもたちにも来ていただいて、とても賑やかで充実した一日になりました。

次回の春の観劇会は新たな場

（白石 高章）

いいだ人形劇フェスティバル

「人形劇カーニバル飯田」から、飯田人形劇フェスティバルを経て40年、今年は「世界人形劇フェスティバル」と銘打って、8月3日から12日までの十日間、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアなどからも参加し、沢山のワークショップや日本の伝統人形芝居が連続公演されました。

猛暑の中、すぎのこも「かもとりごんべえ・くも女房」「ももたろつ」「茶壺道中」の三作品を、五日間、交流センター、公民館、会館などで公演させていただきました。

私たち「ももたろつ」班の公演は8月3日 大鹿村交流センター

山間に囲まれた秋葉街道沿いにある平屋の立派な建物です。大鹿村は映画のロケ地（大鹿歌舞伎）でも有名で、「暑い中、今年は観客数増加でよかったです」と若い館長さんも喜んでいらつしました。

8月4日 中村会館

隣の中村保育園の園児さんも駆けつけてくれて、「みんながよく知っている『ももたろつ』なのでよかった」との感想も。



公演後は会館の方たちとの交流会があり、汗だくのあとのスイカや唐揚げは、とてもおいしかったです。飯田のみなさんありがとうございました。

（小杉 正繁）

8月9日、10日の二日間、飯田人形劇フェスタに参加しました。演目は、わらべ歌「すいすいすころばし」が元になっている「茶壺道中」のお話。すいすいすころばしの歌詞と照らし合わせながら、シーンごとに描かれた大きな絵と語りでお話が進められていきます。分かりやすく言えば、音響や照明なども加わった大きな紙芝居といったところでしょうか。

このお話は、江戸時代の大行列の様子を描かれており、赤ん坊が行列に向かって歩いていくところを母親が止めようと駆け寄ると、「無礼者！」「お母さんが切られてしまうシーンがあります。衝撃的な内容に子どもが怖がるのではないかと不安がありました。

上演初日を迎え、19時から遅めの時間帯にもかかわらず、暑い中、百人を超えるたくさんの人が足を運んでくださいました。15分ほどの短めなお話ですが、みなさん真剣に観てくださり、終わった後の大きな拍手が心地よく響きました。

みなさんからのアンケートでは、特にご年配の方や親御さんから好評をいただき、大人の方にも楽しんでもらえて嬉しかったです。子どもの感想の中には、「少し怖かった」という声もありましたが、「面白かった」「すいすいすころばしに、こんな意味があったなんて勉強になった」

など、難しいお話ながらも自分なりの感想を持って、楽しめたようで安心しました。

また、一緒に会場で上演した他の劇団さんの人形劇を観て、関西弁の利いた親しみやすい演技が印象的だったし、しりとりを用いたコミカルな腹話術で場を盛り上げたり、自分とは違ったスタイルで子どもたちが楽しんでいる様子に刺激を受けました。

9日の上演先の会場は、いつもここでやる公演は面白いからと、この日を楽しみに北海道から6年続けて観にいらつしている方もいると聞きました。その気持ちに伝えたい。そして、また観たいと思ってもらいたい。この気持ちが、表現に対する向上心へ繋がり、これからも極めたいと思います。

公演後の交流会では、他の劇団さんや地域の方と関われる貴重な場でした。今回、自分でしたと思って挑戦したことなので、心に残る二日間になりました。

（長谷川 唯）



独立行政法人 日本芸術文化振興会
助成事業「このつぎなあと」
につきまして



芸術文化振興基金
助成事業

平成30年度芸術文化振興基金の助成対象となりました「このつぎなあと」全国巡回公演は、5月から7月にかけて九州地方にて59公演を行いました。ご観劇いただいた幼稚園・保育園の皆様には心より感謝申し上げます。

本公演は9月より中国地方を中心に巡回しています。今夏に発生した西日本豪雨で被害に遭われた地域にもおうかがいさせていただく予定です。甚大な自然災害が起きた際に、被災した子どもたちのために私たちは何ができるのか、何をしなければならぬのか。各々が改めて考え、一回一回の公演を大切に、心をこめてお届けしてまいりたいと思いますので、よろしく願います。

横尾一治記念「すぎのこ飯能研修センター」
移転のご報告

当法人の横尾一治記念「すぎのこ飯能研修センター」は、平成30年8月末日をもって、下記へ移転いたしました。

この施設は、故・横尾一治先生からの土地と、皆様からの温かいご寄付と、日本宝くじ協会の助成を受けて建設されたものですが、15年を経、これからの時代に沿った事業展開を進める上での立地などを考えての決断です。皆様の温かいご理解を是非とも賜りたいと思います。

【今後の予定】

- 2018年度
 - 2学期 中国地方
 - 3学期 四国地方
 - 2019年度
 - 1学期 北海道
 - 2学期 九州地方
 - 3学期 首都圏
 - 2020年度
 - 1学期 北陸地方
 - 2学期 東北地方
 - 3学期 東海・近畿地方
 - 2021年度
 - 1学期 甲信越地方
 - 2学期 関東地方・沖縄
 - 3学期 関東地方
- (福島 亜紀)

研修センターのご案内

当財団には、群馬県に日本小型自動車振興会(現財団法人JKA)の補助により建設された「すぎのこ山荘」と日本宝くじ協会の助成により整備された「わんぱく村」からなる「すぎのこ婦恋研修センター」があります。

この施設は緑ゆたかな自然に恵まれ、大変静かな環境に立地し、音楽や演劇等の芸術文化活動や公益活動にお貸ししています。

合宿や研修等で会場をお探しの方は、ぜひご検討ください。(利用目的は原則自由ですが、冠婚葬祭やそれに類する事、営利目的の活動には使用できません)

近くには、海拔1240m、周囲2kmに及ぶバラキ湖をはじめ、近隣に日帰り温泉施設「湖畔の湯」やバラキ高原婦恋スキー場等が点在し、年間を通じてレジャーや野外活動の拠点としてご利用いただける他、敷地内にはテントサイト(シャワー室・トイレ完備の専用洗面棟併設)



婦恋研修センター



婦恋研修センター
利用報告

「すぎのこ婦恋研修センター」は今夏も大勢の方にご利用いただきました。子ども連れのお友達同士でご利用された団体様や、遠く中国からご家族でご利用されたお客様もいらっしゃいました。

今年の夏は全国各地で猛暑日が続きましたので、涼しい

や雨天でもバーベキューが楽しめる集会棟、アスレチック広場等が整備され、日本キャンプ協会の優良キャンプ場として認定されています。

Email:support@suginoko.org

または03-3984-23

96(事務局)



婦恋でバーベキュー等の野外活動をお楽しみいただき、皆様から「また利用したい」というお言葉をたくさんいただきました。

来年の夏もすでにリピーターの団体様からご予約をいただいております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

新人紹介



澤田 竜人

みなさん、はじめまして。7月からすぎのこに入団しました。私はこういった仕事は初めてでまだ慣れないですが、楽しくやらせていただいています。観てくださる方に何か伝わるように、情熱を持っています。純粋な心で取り組んでいきますので、温かく見守っていただけると幸いです。

活動記録(平成30年7月~9月)

- 8/3 いいだ人形劇フェスタ参加「ももたろう」 於・長野県大鹿村交流センター
- 8/4 いいだ人形劇フェスタ参加「ももたろう」 於・長野県中村会館
- 8/5 いいだ人形劇フェスタ参加「かもとりごんべえ」 於・長野県名古熊公民館
- 8/9 いいだ人形劇フェスタ参加「茶壺道中」 於・長野県北公民館
- 8/10 いいだ人形劇フェスタ参加「茶壺道中」 於・長野県江公民館
- 8/23 第一期全国巡回公演終了創造部公開ゲネプロ 於・飯能研修センター
- 8/29 第二期全国巡回公演開始飯能研修センターが狭山研修センターへ移転

劇団研究生を募集しています

すぎのこでは、子どもたちにナマの舞台の感動を届ける仲間(劇団研究生・人形劇俳優)を募集しています。全国の幼稚園・保育園や各種イベント会場・劇場などで人形劇の公演活動を通じ、たくさんの方に出会えることがこの仕事の魅力です。巡回公演が中心ですので、長期間の出張が可能な方、子ども好き、旅好きの方で興味を持たれた方はぜひ、私たちの活動に参加してみませんか。尚、未経験の方は研修・指導を行います。又、営業制作も募集しています。活動内容や条件等、詳しくは左記へ連絡ください。

Email:info@suginoko.org

または04-2968-4721

(狭山研修センター)



平成30年北海道胆振東部地震により被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。